

第49期（2023年4月期）第2四半期
決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

2022年12月13日

美しくを、変えていく。

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイデアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

業績ハイライト

《トピックス》

➤増収増益 ※いずれも上半期の過去最高

- 売上高 265億円
- 営業利益 53億円、経常利益 67億円、純利益 45億円

➤増収の主な要因

- 中国のECによる販売が6.18、11.11（ダブルイレブン）などのイベントを中心に好調を維持

➤増益の主な要因

- 売上規模の拡大
- 円安ドル高のため、保有する外貨建資産の換算替えに伴う為替差益を営業外収益に計上

(百万円)

回次	第47期 第2四半期 2020年5月1日 ～ 2020年10月31日	第48期 第2四半期 2021年5月1日 ～ 2021年10月31日	第49期 第2四半期 2022年5月1日 ～ 2022年10月31日	【ご参考】 第48期 2021年5月1日 ～ 2022年4月30日
売上高	18,727	20,907	26,568	40,943
営業利益	4,026	3,925	5,367	6,880
営業利益率 (%)	21.5	18.8	20.2	16.8
経常利益	3,948	4,110	6,799	8,063
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,354	2,796	4,542	5,586
1株当たり 当期純利益 (円)	42.80	50.82	82.56	101.54

セグメント情報

《トピックス》

▶海外部門は引き続き好調

- 中国国内のECによる販売が、6.18、11.11（ダブルイレブン）などのイベントを中心に好調に推移
- 継続的な広告宣伝活動により高級ブランドのイメージが定着
- 現地で好まれる製品の開発が奏功

▶国内各販路はいずれも堅調

- 店販部門は対面販売の不調の影響を受けたものの、通販部門、直販部門は堅調に推移
- 商材別では、フォトプラスシリーズ（RF美顔器）やレイボータシリーズ（光美容器）、シャインプロ（ヘアアイロン）などが健闘

売上高

(百万円)

回次	第47期 第2四半期 2020年5月1日 ～ 2020年10月31日	第48期 第2四半期 2021年5月1日 ～ 2021年10月31日	第49期 第2四半期 2022年5月1日 ～ 2022年10月31日	【ご参考】 第48期 2021年5月1日 ～ 2022年4月30日
通販部門	2,733	2,627	4,181	5,202
店販部門	3,497	4,588	3,791	8,398
直販部門	6,657	5,557	5,130	11,566
海外部門	5,491	7,507	13,435	14,522
その他	347	625	29	1,253
合計	18,727	20,907	26,568	40,943

営業利益

(百万円)

回次	第47期 第2四半期 2020年5月1日 ～ 2020年10月31日	第48期 第2四半期 2021年5月1日 ～ 2021年10月31日	第49期 第2四半期 2022年5月1日 ～ 2022年10月31日	【ご参考】 第48期 2021年5月1日 ～ 2022年4月30日
通販部門	1,190	1,103	1,722	2,132
店販部門	1,017	1,406	924	2,508
直販部門	3,011	2,791	2,593	5,844
海外部門	2,078	2,430	5,609	4,385
その他	△81	259	15	499
調整額 (※)	△3,189	△4,065	△5,499	△8,489
合計	4,026	3,925	5,367	6,880

(※) 調整額は開発部門・管理部門等の全社に共通する費用です。

財務ハイライト

《トピックス》

➤ 棚卸資産が増加

- 原価低減と安定供給を目的として、主要な製品について受注生産から計画生産へと生産体制を転換
- 電子部品の供給逼迫や価格高騰に対応するため、生産計画に従って在庫を確保

➤ 売上債権が増加、仕入債務は減少

- 売上規模の拡大に伴い、売上債権は増加
- 計画生産が奏功し、前年同四半期比で仕入債務は減少

(百万円)

	第47期 第2四半期 2020年10月31日	第48期 第2四半期 2021年10月31日	第49期 第2四半期 2022年10月31日	【ご参考】 第48期 2022年4月30日
総資産	24,966	28,706	35,692	30,552
純資産	15,616	19,352	26,324	22,093
自己資本比率 (%)	62.6	67.4	73.8	72.3
現預金	12,733	11,800	14,722	16,649
売上債権	4,056	6,348	9,141	5,194
棚卸資産	3,234	5,347	6,253	4,118
仕入債務	3,335	3,294	2,789	1,870
有利子負債	2,926	2,288	1,653	1,970

第3四半期以降の取り組み

➤ 中期投資計画に基づき、各種投資を実行

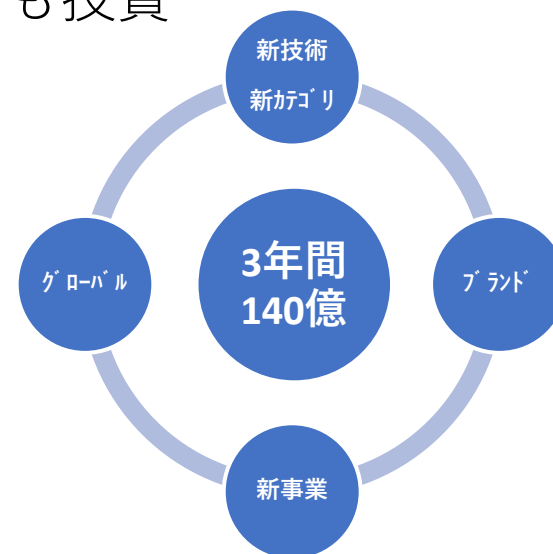
- 広告宣伝に関しては、ブランディングと下半期における販売拡大を狙って、新カテゴリのヘアケア・シェーバーへの投資をさらに強める
- 研究開発に関しては、グローバル展開をふまえた各国における規格認証への対応と、新カテゴリ創生に向けた製品開発に対する投資を拡大するほか、産学連携による共同研究投資にも注力する
- サプライチェーンの強靱化やグローバルマーケットの開拓、リスクコントロール体制強化などにも投資

■ 中期経営計画

<https://www.ya-man.co.jp/ir-info/policy/medium-term-mng-plan/>

■ 中期投資計画

https://www.ya-man.co.jp/wp/wp-content/uploads/investment_plan_20220614.pdf





■ヘアケア

<https://www.ya-man-tokyo-japan.com/products/hair.html>

■シェーバー (HOT SHAVE)

<https://www.ya-man-tokyo-japan.com/special/shaver/rfshaver2022/>

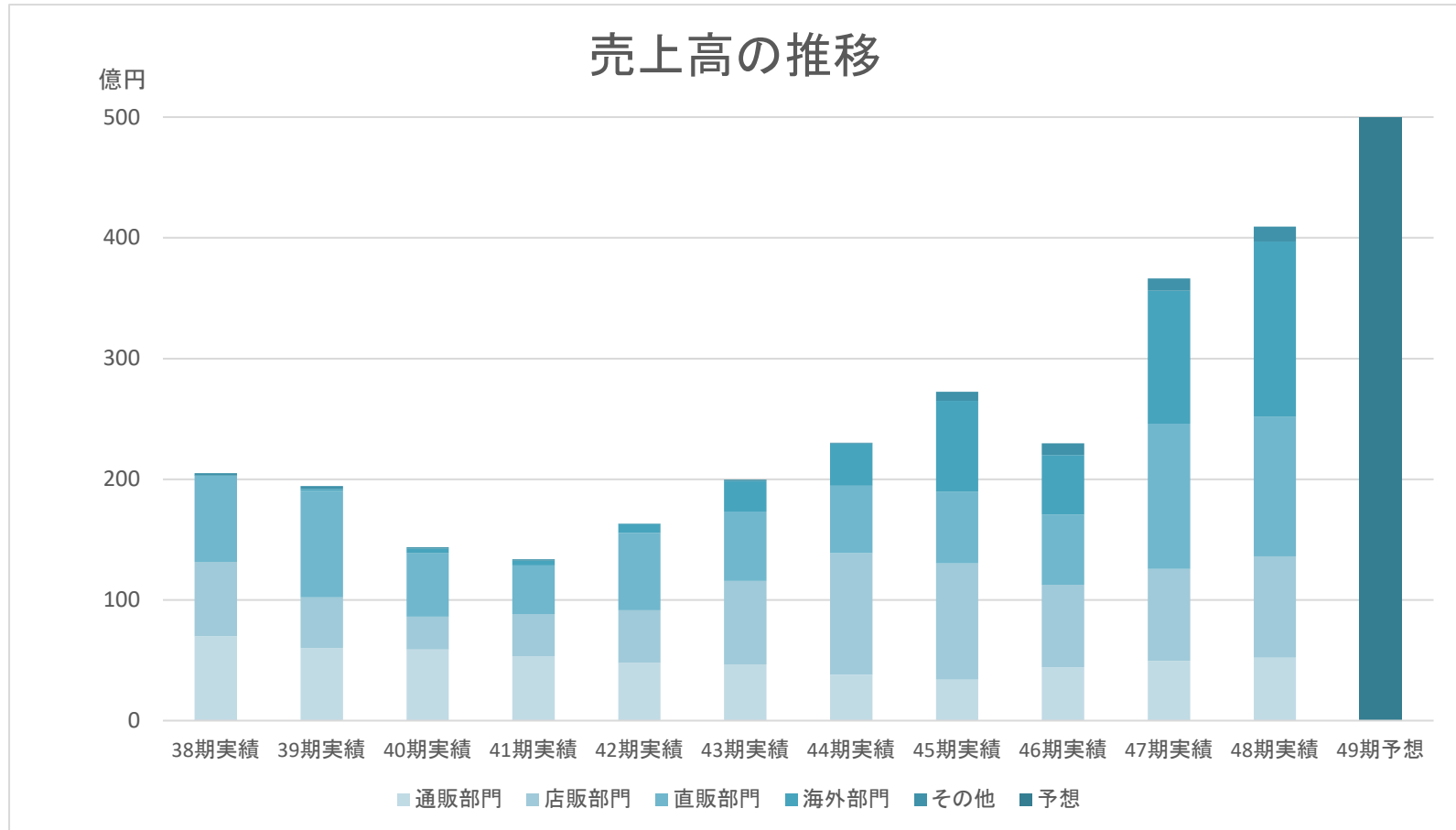
業績予想

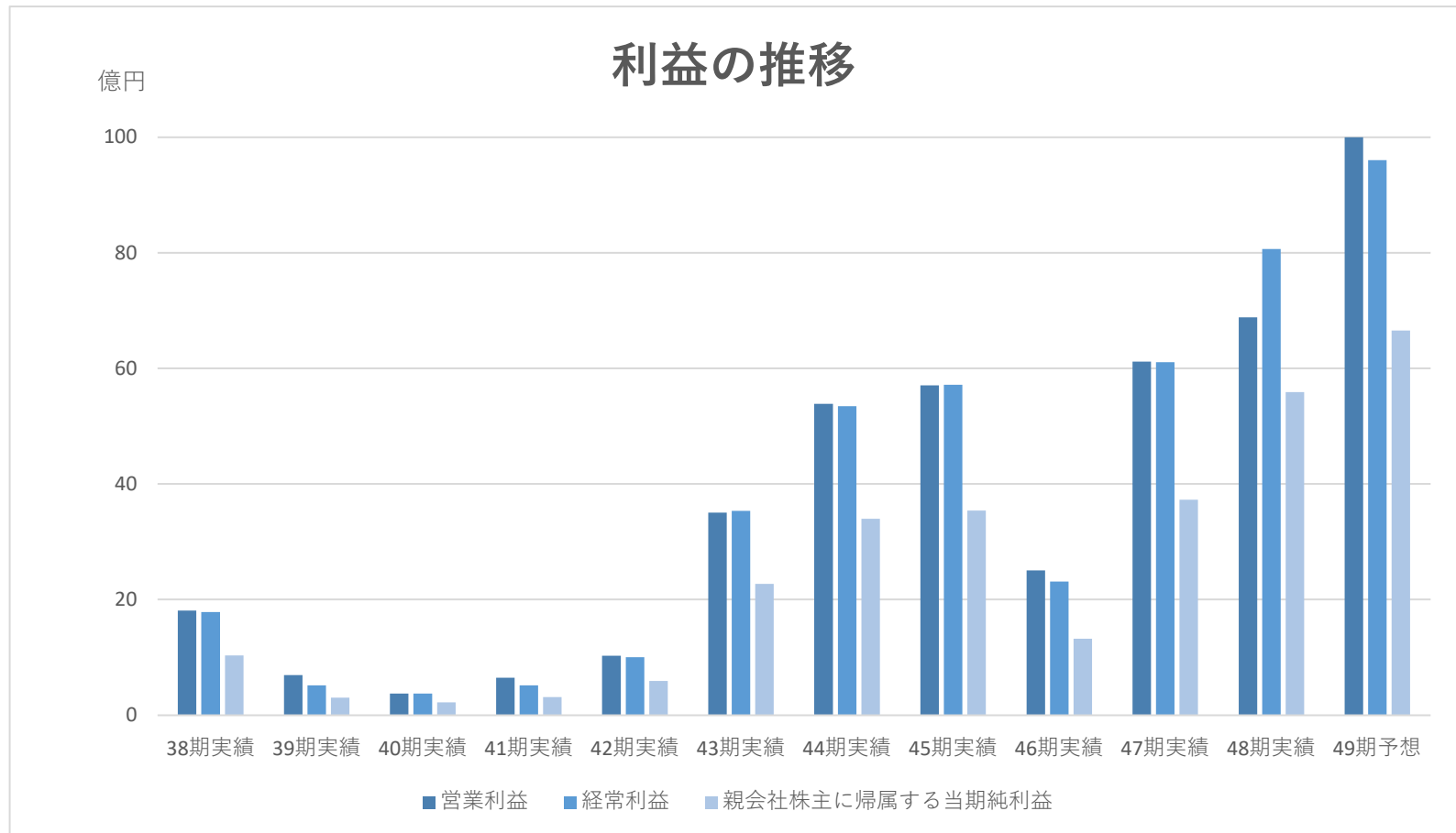
➤通期予想 売上高500億円、営業利益率20%

中国国内市場でのEC好調の持続、入国制限の緩和に伴うインバウンド需要回復の兆しなど、業績に対するプラスの材料はあるものの、世界的なインフレの高進、数十年振りのドル高・円安水準、原材料価格や物流コストの上昇など、昨今の情勢は極めて不安定・不確実であり、現時点で通期連結業績予想を数値化することは非常に困難であると判断いたしました。

したがって、今回は、2022年6月14日に発表した予想数値である「売上高500億円、営業利益率20%」を据え置いております。

なお、今後の情勢を注視し、修正が必要と判断した場合には速やかに公表する予定です。



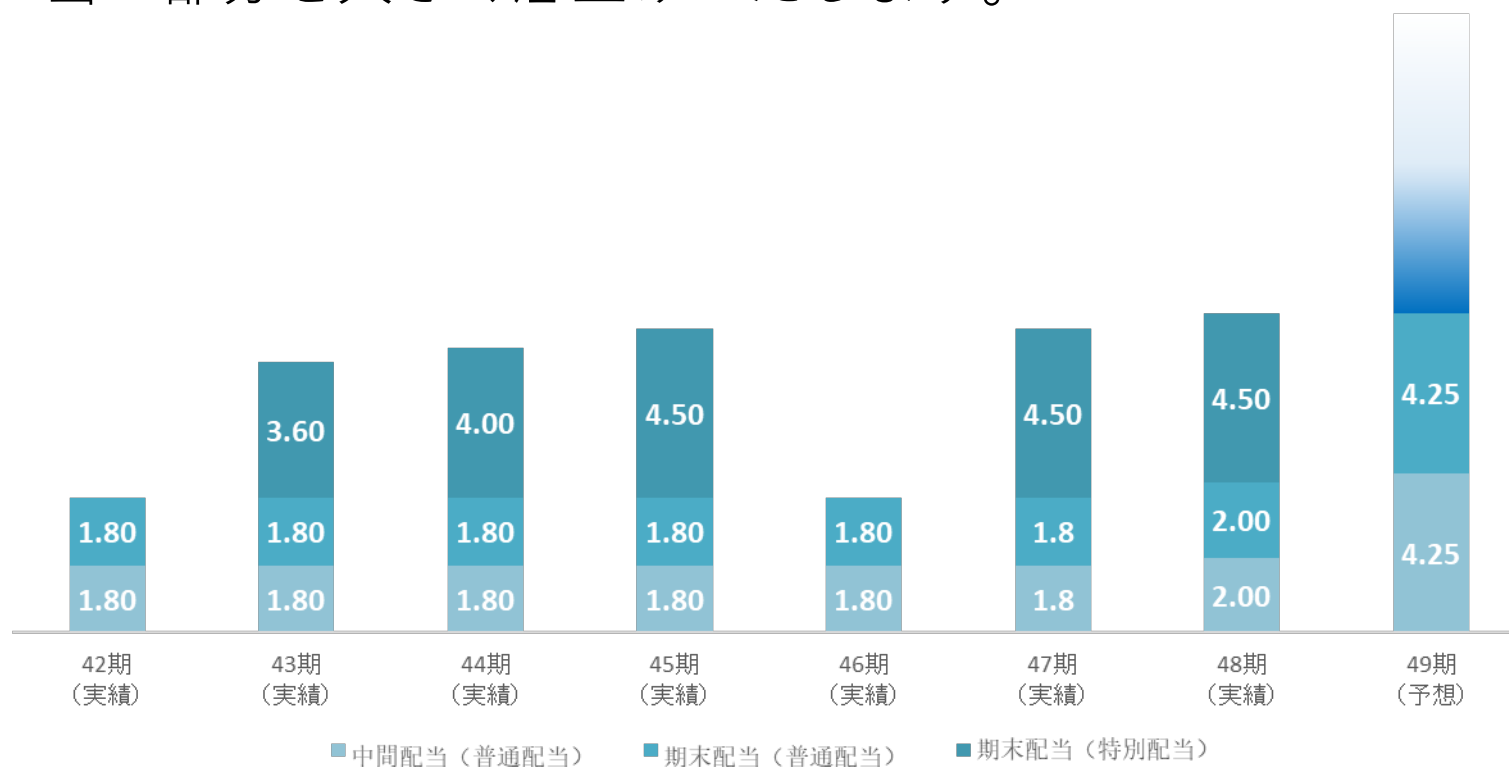


配当政策

➤ 今期の配当予想は普通配当を底上げ

中間配当4.25円 + 期末配当4.25円 = 年間配当8.5円

例年、通期の業績等を勘案して最終的な金額を決定してまいりましたが、その方針は維持しつつ、今期は普通配当の部分を大きく底上げいたします。



➤ 中間配当は当初予想通り1株当たり4.25円

第49期（2023年4月期）の中間配当につきましては、2022年12月13日開催の取締役会決議に基づき、当初の予想どおり1株当たり4.25円とさせていただくこととなりました。なお、期末配当につきましては、前頁でもご説明しているとおり、通期の業績を勘案して最終的に決定する方針です。

* 基準日	2022年10月31日
* 支払開始予定日	2023年1月5日
* 1株当たり金額	4.25円
* 配当金の総額	233,840千円

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。